

落第騎士の英雄譚～最
強の剣舞姫～

やっぱりマグロ食ってる奴は駄目だ
な。

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、第二次世界大戦に日本を戦勝国へと導いた三人の極東の英雄がいた。

その一人である『拳神』と呼ばれていた姫終剣。そしてその妻である『槍姫』姫終雪菜。

そのひ孫である姫終楓は破軍学園一年一組に所属していた見た目麗しい少女だった。

……しかし。そんな少女はいつもいう言葉があった。

『俺は男だ!!』……と。

そんな、見た目美女な男子学生である主人公がどこぞのツンツン頭の学生のごとく不幸にあいながらもひたすら頑張り、後に『拳神』と『槍姫』にもじって、その戦う姿か

ら付けられる二つ名『剣舞姫』と呼ばれる様になる最強の剣士の物語が始まるのである。

目次

設定集	1話
7	1

1話

時は戦時、第二次世界大戦。日本は3人の英雄のおかげで戦に勝利し平和を勝ち取った。その戦場を生き抜いた3人の騎士……否、侍であり、『黒鉄』『南郷』の好敵手とされた歴戦の猛者である『姫終』。この3名の活躍によつて歴史が進んだのだった。

戦時から時は過ぎ、いまは平成。いま世界では己の魂を武器に変えて戦う現代の魔法使い伐刀者（ブレイザー）という者が存在していた。

己の魂を武装——《固有武装デバイス》として顕現させ、魔力を用いて異能の力を操る千人に一人の特異存在。それが伐刀者（ブレイザー）。

古い時代には『魔法使い』や『魔女』とも呼ばれてきた彼らは、科学では測れない力を持つており、最高クラスならば、時間の流れを意のままに操り、最低クラスでも身体能力を超人の域に底上げすることができた。

——人でありながら、人を超えた奇跡の力。

武道や兵器などでは太刀打ちすることすら叶わない超常の力。

伐刀者（ブレイザー）と呼ばれる者達は、皆、その様な異能の力を操るため、伐刀者（ブレイザー）になった者は重い社会的責任を背負うこととなるが、代わりに元服制度が

適用され、15歳で成人となり、飲酒や結婚などが認められている社会となった。

いまや、伐刀者（ブレイザー）が国力——つまり戦力となっており、伐刀者（ブレイザー）が多い国ほど力の強い国となっている。伐刀者（ブレイザー）とは国にとって何よりも大切な人材なのであった。

そのためか、今や警察も軍隊も——戦争ですら、伐刀者（ブレイザー）の力なくては成り立たない。

だが、大きな力には相応の責任が伴う。その一つが《魔導騎士制度》である。

魔導騎士制度とは、国際機関の認可を受けた伐刀者ブレイザーの専門学校を卒業したものののみ『免許』と『魔導騎士』という社会的立場を与え、能力の使用を認めるというものだ。

そしてここ、日本の東京都に東京ドーム10個分という広大な敷地を持つ『破軍学園』もその免許を取得するための、日本に七校ある『騎士学校』の一つである。

ここでは若い伐刀者（ブレイザー）たちが『学生騎士』として日々己の技を磨き、切磋琢磨している。

そして、その学園の正門前に一人の少女……いや、少年が立っていた。

瞳が青く腰まで伸びた枝毛一つもない艶やかな髪とその細くくびれた腰を持った美少女。

そんな美少女な彼は、この学園に入学するために入学試験を受けに来たのだ。

人のみでありながら人を超越した力を持つ伐刀者の存在は社会にとって財産だ。国是といってもいいほど社会にとって貴重な存在。故に、騎士学校には試験がなく、素質があれば誰でも入学ができるのだが、破軍学園は違う。

全寮制と支援金による衣食住の保証＋学費全額免除という特典が存在するため、その投資に見合う伐刀者を選別するのだ。

「……はあ。なぜ俺は学生なんぞやらなきゃいけないのだろうか……」

そんな彼はぶつぶつと文句をいいながらスーツを着た女性とベンチに座っていた。

「まあ、そう言うな。お前のご両親と祖父母の命令だろう？しかたがないことさ。いい加減諦めろ。」

黒いスーツを着た女性がいう。

「そうは言っても……面倒臭いのはしかたがないです」

「ふふ。相変わらず面倒事が嫌いなのだな。……む？そろそろ時間か。では編入試験会場に行くか。ついてこい」

黒いスーツを着た女性が席を立つ。彼はその後引き続き背中を追う。

スーツの女性に連れられて学園内を歩く。この世界観は不思議と理解している。伐刀者（ブレイザー）という存在がいることくらいだけだが。学園内は活気に溢れ、普通

の学校と同じように思える。

スーツの女性が渡り廊下の先で足を止める。そこには両開きの大きな扉があり、その上に第2訓練場と書かれている。

「私の案内はここまでだ。私はあくまでもお前の保護者代わり兼この学園の案内で着いてきただけ。私にも仕事があるのでな、ここで帰らせてもらう。お前なら大丈夫だとは思うがこれだけ言わせる。頑張れ」

「うん。頑張るよ」

彼が笑顔でそう言うと、スーツを着た女性はそうかと鼻で笑いそして来た道を戻り帰った。

彼は彼女の背中を見えなくなるまで見たあと、会場の扉を開き中に入る。

中に入るとまず目につくのは中央のリング、そしてその周りを階段状の観客席が囲んでいる。その中央にはこのの教員と思われし人物と、対戦相手なのだろうか？1人の男子学生がいた。

「お前がこの試験会場の試験者、姫柊楓だな？」

「はい。姫柊楓です」

「よし、ならば双方固有礼装（デバイス）をだせ」

「はい！——迦楼羅（カルラ）」

「来たれ——叢雲（ムラクモ）」

相手は大太刀の様な赤い刀身を持っていた。それに対し姫終楓は黒い刀身に赤い波紋がある太刀を持っていた。

試験監督と思われし先生が固有礼装デバイスを装備した二人に確認をとる。

「よし。準備はいいな？ではLET, s GO AHEAD（試合開始）！」

始まってすぐは対戦相手は動かなかつた。相手の能力がわからないからという理由もあつたがそれ以上に別の理由があつた。

ここは試験会場、たしかに力を見せる場とはいえ、ましてや相手は女子、自分よりも小柄でひ弱そうな少女だ。ならば向こうの出方を見ようと思つたのだ。すぐに倒してしまつては試験にならないと。なんせ、自分はインターンの世界試合で序列5位に入つた実力者なのだからと……

一方、姫終楓は始まってすぐ行動した。といつても黒鉄に近づくわけではない。彼女が行つたのはただの簡単な動作だ。

「斬る！」

姫終楓はただ真つ直ぐ進んだ、ただそれだけの動作だつた。しかし、相手からすれば前かがみになつたと思えば視界から消える。そう、見えていた。

そして——

「さようなら」

対戦相手であった少年は最後に意識が暗転する。

「斎賀選手、意識不能。よってこの勝負、姫柀選手の勝ちとする！」

「ふう……この程度の相手、遊び相手にもなりませんね」

姫柀楓は自身の固有礼装（デバイス）を消したあとその場を後にする。

この後、この先、彼には様々な事が起きるがいまの彼にはそれを知るすべがない。そして、そんな事件や出来事を通して更に高みえと上り詰め後に最強の名を持つものと戦うこともいざ知らず……

そんな彼が後に『最強の剣舞姫』と呼ばれるようになるとは、この時の彼は思いもしなかったのだった。

設定集

主人公 姫柊楓 (ヒメラギ カエデ)

武器? 叢雲(むらくも)

見た目は、ONE PIECEのロロノア・ゾロの刀、大業物の黒刀『秋水(しゅうすい)』

性別? 男の娘

歳? 黒鉄一輝と同じ年

身長? 150 cm 体重: 48 kg

見た目? まんまレン・アッシュユベル。髪の毛の長さは腰まで髪は切ろうとしたが、家族に止められ切れない。

見た目が女の子なのでそれを気にしている。

性格? 優しいが少し鈍感。だが怒ると誰よりも怖い。

好きな物? 家族、料理、お菓子、剣、昼寝、散歩、日向ぼっこ

嫌いな物? 家族を不幸にする奴、姉たちを性的な目で見てくる奴、うざい奴、外道な奴、口先だけの奴、悪人

・習得した技一覧

剣舞地雷撃

剣を地面に突き刺し、魔力で地面から無数の石柱を生み出して攻撃する。

地衝雷

地面を刀で叩き大量の土砂や石の弾丸を放つ。攻撃力はあまり無く、目晦ましに用いられる。

氷風乱舞

舞うように刀を相手に振り下ろし風属性と氷属性の相互干渉を利用し、氷風の竜巻を起こす荒技。

1日3回が限度で、消費魔力が半端ない割に技自体の威力が低すぎる技でもある。

乱舞砂嵐

刀を捻るように力いっぱい振り上げ砂嵐を発生させ、相手の目を晦ませる技。

絶対氷壁

氷の壁を作り、身を守る防御魔術だが、とある日に捕縛対象の逃げ道を塞ぐためや、足場を作るためにも使用されたことがある。魔力消費もとても低く、日常や戦闘で使いやすい技。

氷結閃光

氷属性の基本的な力。対象となった物質を凍らせる。言わゆる“れいとうビーム”。ちなみに攻撃的な威力はほとんど無い。ただただ凍らすだけの技。

魔氷の樹海（アイス・フォレスト）

地面から樹氷の蔦を伸ばして氷漬けにし、相手をまとめて無力化させる高位の魔術。

魔氷の雷雨（アイス・レイン）

氷の塊を放ち空中分解させ、無数の刃にし、その氷の刃に雷を纏わせ雨の様に降らせ、相手にダメージを与える技。

氷破の槌（フロスト・フール）

大気中の冷気を凝固させ、巨大な氷塊を作り、相手に落とす。

氷華乱舞

自身の固有礼装（デバイス）である叢雲に氷を纏わせ、それを舞うようにふるい強烈な吹雪を生み出し、相手を氷漬けにする技。

氷絶結界

自身の周囲に冷気の防壁を展開する防御魔術。大体のものなら防げる。魔力を高めれば戦艦や戦車の砲撃位なら余裕で防げるし、Aランク騎士の攻撃もある程度なら防げる。しかし、炎系には滅法弱いので、ステラレベルとなると、全力出しても防げるかど

うかは分からない。それでも防げないとも言っていない。

氷槍の嵐（アイシクル・ストーム）

ひし形の氷の塊を複数作り風の魔術と一緒に使い、竜巻の様に相手の周りに回転させ相手を閉じ込める結界を作る技。難点として、消費魔力が酷いのと、結界もそこまでの力がない。せいぜい足止め程度。

破冰の大槍

虚空に巨大な氷の槍を生み出し、相手に放つ技。

凶ツ風

無数の風の刃を生み出す。簡単に言うとな普通に剣圧で鎌鼬の様なものを相手に向かって生み出す技。

風絶障壁

風の障壁で身を守る防御系の魔術。消費魔力が少なく便利。普通の拳銃やAK-47などのアサルトライフル程度の弾丸位の威力ならこれで防げる。しかしs&w m500や機関砲や軽・重機関銃などの威力になると防げず、またロケランなどの強い爆風となると、その爆風で風の障壁が破られることもあり、あまり防御方面に置いては低レベルである。

風王爆閃陣

爆風で相手を吹き飛ばす魔術。地面に打ち込むことで目晦ましにも使える。

蛇蝎（だかつ）

地面すれすれまで身を沈めて相手の足元に攻撃する。

飛蛇（ひじや）

地面に突き立てた刃を一気に跳ね上げて神速の斬撃を放つ。楓は〈蛇蝎〉からのコン
ビネーションで使用した。

閃牙（せんが）

自分の剣を、相手の剣の刃の上を滑らせるカウンターのような技。

死を呼ぶ雷閃（ヴォーパル・ブラスト）

叢雲から放たれる剣技で、無数の黒い雷撃で攻撃する。

正確には、叢雲に雷属性の魔力を纏わせ相手に向かって放つ突き技。

・習得した絶剣技

初（はつ）ノ型〈紫電（しでん）〉

部位破壊剣技。実際はただの突き技だが、極めれば別次元の技になる。

二ノ型〈流星（りゅうせい）〉

紫電の派生系剣技。絶剣技の中でも随一の威力をほこる。

神威に下向きの指向性を持たせて一気に解放する。

三ノ型〈影月円舞（えんげつえんぶ）〉

片足を軸にして旋風のような回転切りを放つ対集団戦用の広域殲滅剣技。

四ノ型〈焰切り〉

斬撃の旋風に炎を巻き込み吸収し、自分の剣に炎属性を付与する対炎属性の特殊剣技。

六ノ型〈碎破の牙（さいいはのきば）〉

刃を通じて衝撃を貫通させる邪剣に属する武器破壊剣技。楓はこの技はあまり好きではない。なぜなら人を確実に殺す技だからだ。

七ノ型〈咬竜（こうりゅう）〉

対空絶剣技。空の敵に対しての技。しかし、まだ完成していないためあまり使用しない。

破ノ型〈烈華螺旋剣舞（れっからせんけんぶ）〉

1日1回の破壊剣技。現在の最高は36連。本来は二刀流の技だが、楓は一刀でも発動可能。

一応、1日何度でも使おうと思えば使えるが、そうした場合その剣技ゆえに翌日腕が上がりなくなるか、最悪腕の筋肉や神経が壊れ最悪、刀を振れなくなる。

異ノ型〈氷雨羅刹〉

氷の魔術を組み合わせた剣技で、氷で作った蔦を這わせ、そこから鋭い棘に変化させ攻撃する技。下手に使うと手が凍傷を起こす。

霞ノ型〈水影鏡〉

自分の残像を作り、回避をする。

閃ノ型〈死蝶閃舞（しちょうせんぶ）〉

神速の反撃（カウンター）を放つ剣技。

幼少の時から親や祖父母の技を見ていたため覚え、致命的な一撃は回避することができた。

終（つい）ノ型〈天絶閃衝〉

絶剣技の最後の奥義で対最上位の剣技。相手の攻撃を防御しつつ儀式神楽によって剣技に干渉をしてカウンターとして相手に叩き込む技。未熟なものが使えば使い手の肉体を破壊してしまう。

体力消費も激しく1日1度使えば、技の後は動けなくなる。

終ノ型〈天双絶閃衝〉

天絶閃衝を二刀流として発動できる剣技。これは天絶閃衝以上に体力・魔力ともに消費が激しいので普段は使わない。使うと確実に倒れる。

双剣ノ型〈紫電・改〉

双剣を交叉させ、2本分の紫電を放つ。

二刀流になったときに使っていた。

・オリジナル絶剣技

雷ノ型《鳴神（なるかみ）》

叢雲に雷属性の魔力を纏わせ相手に向かって突き技をし、叢雲から雷を放つ技。遠距離用の技でもある。連発も可能。

※戦国BASARAの片倉小十郎の技を参考

炎ノ型《天照（あまてらす）》

叢雲に黒い炎を纏わせ相手に投げつける中距離技。技を放った本人か高度の水系の魔術でしか消すことの出来ない炎。しかし、水系の魔力を持っている伐刀者（ブレイザー）にはあまり効果はなし。水系の伐刀者（ブレイザー）でBランク以上となると、無効化できる。

※NARUTOの天照参考。

水ノ型《絶破烈氷撃》

前方に氷塊を生み出し砕くことで敵を攻撃する技。正確には掌底を打ち込み、手のひ

らに冷気を集中させ

砕くことよつて攻撃する技。

水ノ型《明鏡止水（めいきょうすい）》

武人特有の鬨気を発動することで相手を威圧し、相手に認識されなくなる技。祖父の技を見様見真似で習得した。

水ノ型《明鏡止水”桜”（めいきょうすい さくら）》

酒を利用した姫終家秘伝の技。盃に波紋が広がる間敵を焼き尽くす。

水ノ型《鏡花水月（きょうかすいげつ）》

相手の認識をずらして相手の技を断つ技（相手の隙を利用して攻撃するカウンターアタックでもある）。

見えていても触れられず、触ると波紋が立つて消えてしまう。まるで「水面に映つた月」の様にぬらりくらりとして本質を掴ませない相手の認識をずらす技。霞ノ型《水影鏡》と明鏡止水の上位版。

風ノ型《天狼滅牙》

拳で敵を殴りつけたあと素早く敵を切り刻み強力な斬撃の一撃を当てる技。

風ノ型《穿風槍撃》

五連撃の風を纏わせた叢雲の連続の突を放つ技。

突ノ型《牙突（がとつ）》

一点集中の突き技。

突ノ型《牙突・空牙（がとつ ふうが）》

空中からの突き技。空中で壁を蹴るように蹴り、そこから隕石の如く突き刺しの状態で落ちてきて相手を刺す。少しでも失敗したり、当たっても着地をミスると地面に激突して大怪我をする危険な技。

突ノ型《牙突・零式（がとつ ぜろしき）》

ほぼゼロ距離からの強力な突き刺し技。相手を確実に殺す技。

氷ノ型《守護氷槍陣》

地面を突き刺し魔力で作った氷の槍が地面から現れて敵を貫く技。味方にも当たるおそれがあるため1人の時に使う。

氷ノ型《氷月翔閃》

刀を振り下ろし、その時に生成された三日月の氷の結晶と一緒に敵を切り裂くように一閃を加える技。鎌鼬の氷番。

剣（つるぎ）ノ型《孤月閃》

三日月を描く軌道で斬り上げる姫終剣術の初級技

剣ノ型《翔月双閃》

月を描く軌道で二回連続を放つ技。

劍ノ型《翔舞烈月華》

跳躍して素早く三連撃を放つ技。

劍ノ型《回転劍舞・地》

刀を持って駒のように横に回転する劍技。

劍ノ型《回転劍舞・天》

跳躍して空中で縦に回転しながら相手を切りつける劍技。

・家族や師匠に教えてもらい覚えた技

拳ノ型《殺劇舞荒拳》

拳と蹴りの連打を浴びせる奥義。

モーション的には下段回し蹴り↓パンチ↓蹴り↓掌底破↓飛燕連脚↓飛び込み蹴り
↓アツパー↓サマーソルト↓アツパーの連携技。祖父と次女が得意とする連撃技。

拳ノ型《紅蓮蹴撃》

炎の魔力を纏わせた蹴り技。祖父が得意としている技。いわゆるライオーキック。

零ノ型《破空》

瞬時に間合いを詰めつつ斬り上げ、更に斜め上方へ向けて渾身の一撃を放つ技。劍と

拳の合体技。

零ノ型《白鷺（しろさぎ）》

二刀の短刀による無数の斬撃を浴びせる技。

零ノ型《荒鷲》

大太刀を頭上に振りかぶり、叩き下ろすと共に大地を斬り裂く技。

零ノ型《絶刑》

背中の太刀を抜刀し、間合いを詰めると共に九連続で斬る技。

・ 姫終剣術 奥義？ 秘奥義一覧

突ノ型《九頭龍閃》 剣術の基本である9つの斬撃

1. 壺：唐竹（からたけ）、もしくは切落（きりおろし）
2. 弍：袈裟斬り（けさぎり）
3. 参：右薙（みぎなぎ）、もしくは胴（どう）
4. 肆：右斬上（みぎきりあげ）
5. 伍：逆風（さかかぜ）
6. 陸：左斬上（ひだりきりあげ）
7. 漆：左薙（ひだりなぎ）、もしくは逆胴（ぎやくどう）

8. 捌：逆袈裟（さかげさ）

9. 玖：刺突（つき）

これらを姫終流剣術の神速を最大限に発動させつつ突進しながら同時に放つ技で、一度技が発動してしまえば防御も回避も不可能な技である。

これを破るには技が発動する前に攻撃して相手を倒すしかない。

剣ノ型《天翔龍閃》

超神速の抜刀術奥義。

右足を前にして抜刀する抜刀術の常識を覆し、抜刀する瞬間に絶妙のタイミングで鞘側の足、つまり左足を踏み出す。その踏み込みにより刀を加速し、神速の抜刀術を「超神速」にまで昇華させる技である。初撃をかわされたとしても、超神速の刀に弾かれた空気と真空領域によって敵の行動を阻害し、まるで掃除機のように相手を引き寄せ、特異な踏み込みによる強力な二撃目で仕留めることができる。

影ノ型《絶影乱舞》

影の様に忍びより、忍者の如く素早く動き、相手を翻弄しながら手を出させずに連続で斬りつける連撃技の奥義。

相手に反撃を許さず、ひたすら休みなしで斬るため、体力の消費が激しい。

終炎ノ型《黒炎乱舞》

叢雲に黒い炎を纏わせ、舞を舞うように相手を切りつける技。最後に相手の地面から黒炎の火柱を上げる奥義。

水系のAランクの伐刀者（ブレイザー）なら対処可能。魔力、体力ともに消費が激しく、1日2回が限度。

少しでもミスすると、自身も焼き付く可能性もある。

天ノ型《天覇神雷断》

天高く跳び上がると同時に魔力を纏わせた叢雲を再び構えてそのまま急降下して特大の斬撃を敵に当てる姫終剣術 秘奥義のひとつ。

斬ノ型《漸毅狼影陣》

素早い動きと斬撃を繰り返したあと背後からすれ違いざまに一閃を加える剣技の秘奥義ひとつ。

滅ノ型《天叢雲剣（あまのむらくも）》

刀身に水と光属性の魔力を纏わせ儀式神楽によって、舞うように滅殺の剣舞を見舞う技。現在の最高連撃が50連で人知を超えた技。一撃必殺がモットーの姫終の秘奥義でもある。3日に1度が限界で、使った翌日はぶっ倒れる。実際は2日に1回は撃とうと思えば撃てるが、家族が危険と判断し禁止し、自身もそう思いそれを守っているため使っていない。更に、消費も激しいため、もしもの時以外は滅多に使わない技。

未熟な者が使えば自身の肉体も精神もすべて壊す大技でもあるため、力無きものにこの技の伝承はしないのが姫終家の掟。

禍ノ型《??》

まだ謎に包まれた奥義のひとつ。祖父しかこの技を使える人物がいない。

豪ノ型《??》

攻撃系奥義の皆伝。攻撃は最大の防御という言葉が合う技。祖父？姫終剣がつくつた最強の矛とも呼べる技。祖父しか使えない。

防ノ型《??》

防御系の皆伝。これの力は豪ノ型とは違い防御特化の技。その力はまさに絶対防御に相応しい力らしい。祖母？姫終雪菜がつくつた最強の盾とも呼べるカウンター技。祖母しか使えない。